

能動型教員研修に関する共同研究会

(平成 29 年 4 月 11 日・島根県教育センター・浜田教育センター（浜田市）)

島根大学教職大学院と島根県教育センター・浜田教育センターは共同して能動型教員研修の企画に関する研究会を行いました。

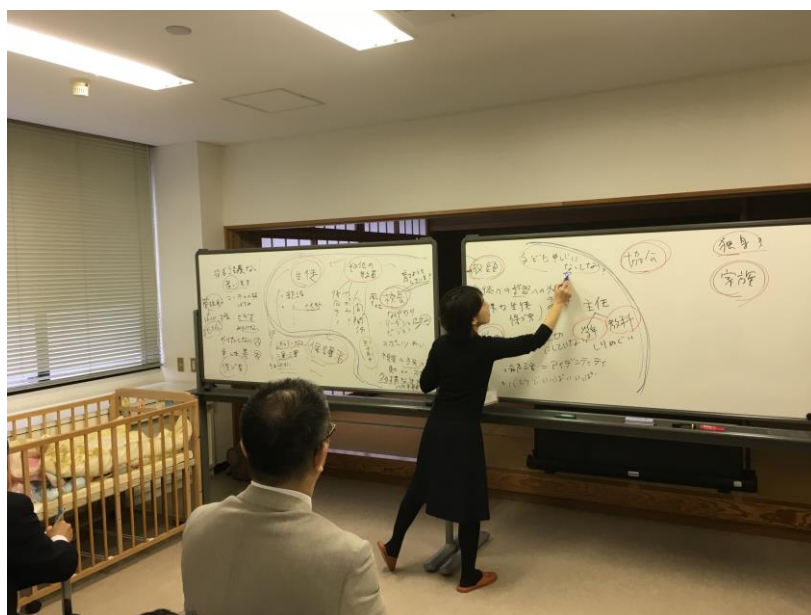
児童・生徒と同様に、教員にも能動型の学びが求められています。しかしながら教員研修のかたちは、なかなか知識伝達型から脱却できません。そこで、島根大学教職大学院と島根県教育センター・浜田教育センター（以下、浜田教育センター）は、共同して能動型の教員研修に関する共同研究をはじめました。

その第一回目として 4 月 11 日（火）、浜田教育センターにおいて島根大学教職大学院が昨年度より取り組んでいるケースメソッドの手法について、同センターの指導主事の先生方にお示し、能動型の教員研修のあり方について協議しました（参加者：島根大学教職大学院・教員 4 名、浜田教育センター・指導主事ほか 13 名）。



説明する 三島修治 特任教授

講義による説明のあと、実際に「学校における部活動」をテーマに、ケースメソッドを体験してみました。多様なステークホルダーを考えることで、学校の課題・解決策が多様に見えてきました。



報告：丸橋静香